



兵庫県ペストコントロール（PCO）協会

会員 長内建佑

1996年兵庫県PCO協会 30周年記念誌寄稿より（1998年法人化）

私は、サンヨー環境(株)に昭和62年に入社して10年程になります。

ちょうど入社した頃、三田市でホロンピアが開催されることになっており、マムシ、ツツガムシ等の問題で事前の調査に社長（現会長）と現場まで行きました。その時初めて、阪神衛材(株)の前田社長、阪神防疫(株)の宇佐社長、そして、協会の事務局長として就任することになる山脇局長と逢いました。

入社したてでPCOのPの字も分からない私には、4人が何を話しているのか、時々専門用語などが飛び交って訳が分からなかったが、山脇さんが今度事務局長になるらしいことと、そして、とても親しく声をかけてくれた皆の笑顔とあの山林の景色だけは何故か今もはっきりと覚えています。

その後も、公私共に大変お世話になるのですが、ただ残念なことに宇佐社長も山脇局長も、30周年記念を前にして故人となられてしまいました。本当に残念でなりません。

もう一つ生涯忘れられない事は、やはり阪神・淡路大震災です。弊社は作業車（3台）作業用器材関係全て家屋の下敷きになり、事務所は手が付けられないような状態で、ただ自宅近くに置いていた乾燥車（1台）だけが助かりました。震災後、自宅(垂水)から会社（三宮）まで3～4時間もかけ事務所の整理、薬剤、器材の掘り出しに必死でした。

テレビのニュースでは被災状況が次から次へと流れてきますが、実際にこの目で見るのとは、全然言葉にならない程ショックでした。そして、各避難所でのボランティア活動の情報も流れてきて、自分たちにも何か役に立つことはないだろうか、いえ、もっと言えば何かせすにはいられない様なそんな気持ちでした。そして、1月末ごろ阪神地区から仮設トイレの消毒の応援の連絡が入り、早速駆けつけ数日間消毒の手伝いをしました。

そんな中で、あの寒い中での避難者生活を目にする機会が多くなり、避難者達の布団類の乾燥が、役に立たないものだろうか思い、当時神戸市衛生局公衆衛生課の松田係長を訪ねたところ、灘区六甲小学校の、NGO（民間活動団体）の本田先生（医師）に相談してみなさいと言われました。本田先生は、布団や毛布が湿って冷たいので、アレルギー性喘息や肺炎になりかけている小さい子供や、高齢者がいるので早速やってみて下さいとのことでした。直ぐに、灘区の保健所衛生課福田課長初め、ボランティアの責任者、避難者の代表の方と打ち合わせを始めました。

当時、六甲小学校には2,000人以上の方が避難されていて、体育館、廊下、教室に足の踏み場も無いくらいに、ほんの僅かなスペースの中での生活を強いられ、それも暖房が全然出来ないために、1日中布団の中にいる状態であった。ダンボールを敷き毛布を何枚か重ね、その上に敷布団、更に毛布、掛布団で、一人当たり約15枚位。グラウンドではテント生活している人も大勢いました。



最初、避難者の方は乾燥車って何だか分からない様子でした。1回当りの所要時間や枚数、温度のこと、毛布や布団のたたみ方を説明し、名前を書くことや必要な人員をお願いし、場所はグラウンドの隅のほうでと決まりました。ただ、問題は一人当たり何枚までにするかでした。私は、寒い中で生活しているのだから当然全部の枚数を乾燥したほうが良いと言うと、そんなことしたらパニック状態になると

言う。今回医師の指示のある人のは当然乾燥するが、他には一応希望者だけにしないと2,000人以上全員が全部の布団毛布を持ち出して来たら大混乱になる。第一全部持ち出したらその間の寒さをしのぐものが無くなるから無理だと言われ、結局一人当たり3枚迄となりました。ただ、その希望者も何人になるのか急なことなので誰も確認取れない不安もあったが、松田係長からは取り合えず3日間だけと言われていたので、大和害虫消毒の上村君に応援をお願いした。

そして、2月2日9時ごろボランティアや避難者の人達の協力で布団毛布の乾燥が始まりました。乾燥の回転を良くする為に、打合せ通りの段取りで順調に事が進んでいきます。

持ち主が直接運んできた布団毛布、持ち主が動けずボランティアの人が運んできた布団毛布、それらに名前を付ける人、それらを約束通りたたむ人、順番通りに1回目分、2回目分、3回目分と小分けする人、乾燥車の出し入れに手渡す人。

そして、1回目のスイッチを入れた。布団の場合15枚、毛布だけの場合は30枚。所要時間は凡そ45分位、設定温度は120。

ところが、1回目で、20分過ぎた頃、小さな除湿口から白い煙が出ており、しまった焦がしたかなと思い、直ぐに後ろの扉を開けてみると、車内は一面白い煙でムンムンしていたが、焦げた臭いはなく、何でこんなに煙が出るんだろうと思いつつ、とにかく暫く乾燥を続け、次の布団類の準備をしていて、その原因が分かりました。さっき布団を入れる時、布団の表面に霜が着いていたのを思い出し、蒸気だ。蒸気なんだ。しかしこんなに蒸気が出るほど湿気ているのか……。



それから、毎回白い煙は勢いよく出ていた。予定の乾燥時間を延ばして、1回目の布団毛布の乾燥が終わり手渡しでどんどん入れ替えます。

出来上がりは手が付けられない位に熱くなっておりボランティアの手で手際よく待機していた持ち主のお婆ちゃん、お爺ちゃん、子供たちに

渡します。わー気持ちいい、ヌクヌクやでー、これは助かるわー、一瞬大騒ぎになって、みんな帰りぎわに、出来上がりの布団毛布を抱えながら、お兄ちゃん、本当に有難う、これで助かったわ、と喜んでいた。中には、手を合わせて行くお婆ちゃんもいた。私も何か興奮してきて、胸が締め付けられるような気がして……。さっきの、白い煙が出るほど冷たい布団や、僅かなスペースの中で毎日寝起きしていることを思うと、なおさら目頭が段々熱くなってきました。私はその時の思いをその後も決して忘れることはなかった。さあー、2回目の入れようか！。ボランティアや子供たちも手伝って次から次へと乾燥が出来ます。

そんな光景を見て、家屋の倒壊だけは免れた近所のお婆ちゃんがやってきて、ウチのもやってほしいわ、また、近くの避難所でボランティアをしている通りすがりの学生は、何かスゲイことやっているぞーと言って走り去って行った。大和害虫消毒の応援もあって、六甲小学校の布団毛布の乾燥は3日間で一応終了した。その間に、灘区の福田課長から直ぐ近くの区民ホールで希望している。他の避難所でも希望している。それから、中央区、須磨区、長田区、兵庫区、東灘区と松田係長から連絡があり、その都度、事前に例の打合せを実施し行った。2月2日から8月2日迄、避難所の布団毛布の乾燥は、延べ布団6,253枚、毛布34,059枚、避難場所194箇所、配車数247台です。

長期間にわたり、神戸市公衆衛生課の松田係長初め、各区の保健所衛生課の方々には、本当にお世話になり、また、私の健康までご心配頂き深く感謝いたしております。



また、PCOの諸先輩方からもご指導ご協力を頂きましたことを心から感謝いたします。

また、この度の避難所における布団毛布の乾燥はボランティアの協力がなければ出来なかったと思います。

この書面を借りて改めて心からお礼申し上げたいと思います。

最後になりましたが兵庫県PCO協会の30周年記念を心からお祝い申し上げると同時に、

これまでの、諸先輩方のご苦勞に深く感謝いたします。

一度に5,500名余りの尊い命を奪った阪神・淡路大震災から1年8ヶ月過ぎた。